

## ◎ 展示会・イベント情報

### 1. 特別展 まちかどの近代建築写真展 ～タイルに会う旅～ 開催



「まちかどの近代建築写真展」は、1998年に立ち上がった近代建築探訪メーリングリストの有志の方々が、「こうした近代建築を通じて、それぞれの町を見直すきっかけとなれば」との思いでスタートし、全国で開催してきた、身近で素敵な近代建築の「アマチュア写真展」です。これらの建築には、時々わき役として魅力的なタイルが登場していました。今回商店建築に焦点をあて、モザイクタイルミュージアムの収蔵資料とともに、きらりと光る「名わき役」たちを中心に、皆様の周りにもある近代建築を紹介します。

開催日時： 2018年10月6日(土)～2019年1月20日(日)  
9:00～17:00(入館は16:30まで)

開催場所： 多治見市モザイクタイルミュージアム 3F ギャラリー  
休館日： 月曜日(休日の場合は翌平日)  
観覧料： 一般300円、高校生以下無料

お問合せ： 多治見市モザイクタイルミュージアム(担当:村山) 〒507-0901 多治見市笠原町 2082-5  
TEL:0572-43-5101 FAX:0572-43-5114 URL: <http://mosaictile-museum.jp>

### 2. 寄贈記念・特別企画展 人間国宝 中島宏氏寄贈「古武雄 一ふるさと大地の記憶」開催

青磁の重要無形文化財保持者(人間国宝)であった故中島宏氏は、自分自身の作陶に精進するとともに、作陶のルーツである地域の陶磁器の研究と収集を行われました。とりわけ、生まれ育った武雄市弓野地区をはじめ、武雄地域の陶器収集には、ひとかたならぬ熱意と愛情をもって取り組み、その収集品を、古い武雄焼き「古武雄(こだけお)」として、図録の刊行や展覧会で発表されてきました。本展は、中島宏氏から、多くの古武雄が佐賀県立九州陶磁文化館に寄贈されたことを記念し、郷土の土と炎が生み出した力強い造形の世界を堪能いただくため、その収集品の中から選りすぐりの逸品を展示します。

開催日時： 2018年10月6日(土)～11月25日(日)  
9:00～17:00

開催場所： 佐賀県立九州陶磁文化館(第1・2・3展示室)

休館日： 月曜日(ただし10月8日「月・祝」は開館)

観覧料： 大人600円、大学生300円、高校生以下無料

お問合せ： 佐賀県立九州陶磁文化館 〒844-8585 佐賀県西松浦郡有田町戸杓乙 3100-1

TEL:0955-43-3681 FAX:0955-43-3324 URL: <http://saga-museum.jp/ceramic/>



## ◎ 美術館情報

【各施設では、下記の特別展・企画展等のほか、常設展を開催しております。】

### 1. 愛知県陶磁美術館 (<http://www.pref.aichi.jp/touji/exhibition/index.html>)

10月27日(土)～12月16日(日)

特別企画展：瀬戸ーかく焼き繋ぎ 江戸時代の本業と新製

瀬戸においては享和年間(1801～04)に磁器生産が本格的に開始され、時流に乗って徐々に拡大しました。それにより陶器生産者たちは、従来行ってきた陶器生産を本来の仕事という意味、さらに、それに対する自負を込めて、自らの仕事を「本業」と呼ぶようになり、磁器生産は「新製」と呼び分けることとなりました。本展は、19世紀以降の瀬戸の本業と新製を代表的作例と記年銘などのある資料、享和年間以前の瀬戸の陶器生産の状況などとの比較を通じて概観することで、現在の窯業地・瀬戸の礎となった本業と新製を紹介します。

### 2. 瀬戸蔵ミュージアム (<http://seto-cul.jp/information/index.php?s=1535002349>)

8月4日(土)～11月4日(日)

企画展：明治150年記念 明治時代の瀬戸窯業 ～超絶技巧の世界～

今回は明治の改元から150年の節目に当たることを記念し、「明治時代の瀬戸窯業」と題して当館収蔵品の中から瀬戸でつくられた「超絶技巧」の選りすぐりの作品を展示します。当館では前身である歴史民俗資料館の時代から近代瀬戸のやきものの重要性に着目し、展覧会の開催、作品・資料の収集、他館への貸出事業を行うなどしてきました。これらは土づくりから成形、絵付、焼成へというやきものづくりの工程それぞれで技術の粋が集められた作品ばかりです。本展では、明治時代の日本の中でも最高水準といえる瀬戸のやきものを、その「超絶技巧の世界」を紹介します。

### 3. 公益財団法人 滋賀県立陶芸の森 陶芸館【滋賀・甲賀】 (<https://www.sccp.jp/exhibitions/toigeikan-exhibition/>)

10月6日(土)～12月20日(木)

特別展：信楽に魅せられた美の巨匠たち

中世古窯以来の伝統を誇り、焼締め陶をはじめ多彩なやきもの文化が育まれてきた陶郷・信楽。近代陶芸の巨匠・富本憲吉、現代陶芸の開拓者として活躍した八木一夫や熊倉順吉、また絵画や彫刻の世界で活躍した岡本太郎など。長年人々の生活を支えてきた歴史や技術への興味や関心から、この地を訪れた作家も少なくありません。彼らはどのような経緯で信楽を訪れ、どのような仕事を手掛けてきたのでしょうか。本展では、そうした作家たちの取り組みをたどりながら、信楽のやきものの新たな魅力を探ります。

### 4. 石川県九谷焼美術館【石川・加賀】 (<http://www.kutani-mus.jp/documents/hpnenkan3.jpg>)

10月6日(土)～12月2日(日)

特別展：北前船日本遺産認定記念第1弾 「東北・北海道に渡った九谷焼」

北前船交易やその他の影響によって日本海側の各地に運ばれた九谷焼を紹介。古九谷、吉田屋窯、宮本屋窯をはじめ、明治九谷を中心に「初公開」の作品を一堂に展示します。

### 5. 公益財団法人 戸栗美術館【東京・渋谷】 (<http://www.toguri-museum.or.jp/tenrankai/next.php>)

10月5日(金)～12月22日(土)

企画展：鍋島と古九谷 一意匠の系譜 展

本展は、当館では初めての試みとして、“日本の三大色絵磁器”に数えられる「古九谷」をはじめとした17世紀中期の「伊万里焼」との意匠の繋がりに焦点を当てて、初出展品を含む約80点を紹介します。